



## 第102回国際年次総会パリ大会 2017.7.13-16

去る7月13日から16日までの4日間、フランス・パリのパレ・デ・コングレ・ド・パリにおいて第102回国際年次総会パリ大会が行われました。花の都パリでの開催とあって、東京クラブからは棚沢会長を始め23人が、日本地区全体でも藤原ガバナーを始め73人と嘗てない多数の参加者となりました。全体では1,993人だったそうです。

13日に行われたASPAC役員会では、2019年にASPAC大会開催に手を挙げていた台湾が辞退。また藤原ガバナーが2021年のASPAC大会を仙台へ正式に招致する旨発言がなされました（来年のクアラルンプール大会で決定）。

大会の開会式は、13日大ホールにおいて行われ、オーケストラの演奏に始まり格調高い式典となりました。翌14日は革命記念日で、諸行事は行われず、この時間を利用して軍事パレードを見に行く人、ホテルでテレビ中継を見る人など様々な方法で革命記念日の様子を知ったようです。同日の昼食会では、看板プロジェクトの表彰式が行われました。日本から応募した「キワニスドール・プロジェクト」は11のファイナリストに選ばれましたが、残念ながらメダル獲得はなりませんでした。

総会では規約改正の審議や副会長の選挙が行われました。次期副会長に新たにダニエル・ヴィニュロン氏（ルクセンブルク大公国ホーバルト）が選出されました。

同日夜メリディアンホテル大ホールで行われたヨーロッパ主催の夕食会には日本地区から35人が出席。ドレスコードがあり、緊張して出席した参加者も雰囲気慣れると大盛況となるパーティーでした。

15日に行われたカウンセラーのピーター・キンバ



リー氏とのミーティングには佐藤次期ガバナーなど4人が出席し、意見交換を行いました。ところがパリからの帰途、キンバリー氏は機内で体調を崩し、治療の甲斐なく急逝されたとの連絡を受け、元気なお姿に接した直後なだけに私どもも大きなショックを受けました。同様に謹んで哀悼の意を表した次第です。

なお北里国際理事におかれては、15日の意見交換会で、先に日本地区で行われたKコアのホームステイについて報告された外、同日行われたKCF主催の昼食会の席上、メジャーギフト達成で表彰を受けられました。

15日の夕刻行われた閉会式では、次回開催のラスベガスの宣伝が行われるなどにぎやかにパリ大会の幕を閉じました。その晩、外のレストランで行われた日本地区合同の夕食会には46人の出席者があり、大いに盛り上がりました。

会期中パリは、日本国内と勝るとも劣らない暑さが続きましたが、日本と比べ湿気が少ない分楽な感じでした。大会終了後、ヨーロッパの他の都市へ回る人、パリ市内を改めて観光する人など様々な今回のパリ大会を楽しまれたようでした。

（伊藤一實日本地区事務総長）

## 奉仕活動が評価される 2017.7.13-16

東京クラブでは、キワニスドールづくりや子ども食堂など各種の奉仕活動に力を入れてきておりますが、今年はそうした活動に対して高い評価が与えられたのでそれをご紹介します。

まずキワニスドールづくりですが、今年の7月パリで開かれた世界大会の際に行われた看板プロジェクトコンテストのファイナリストに残り、表彰を受けることとなりました。この看板プロジェクトコンテストというのは、世界の各クラブがそれぞれを代表する奉仕活動プロジェクトを持ち寄り奉仕活動としての効果や

知名度向上の効果を競うもので、今回は世界の43のクラブから応募がありました。その中から11のプロジェクトが最終選考に残ったのですが、日本のキワニスドールづくりは、その最終選考に残ったのです。これは私たちのキワニスドールづくりが発祥の地であるオーストラリアのクラブを差し置いてファイナリストの栄冠を勝ち取ったものであり、2001年に我が国でドールづくりが導入されて以来の私たちや諸先輩の努力が高く国際的に評価されたものといえます。ファイナリストの賞状の写しは以下に示す通りです。



つぎに子ども食堂プロジェクトです。このプロジェクトは3年前から始められたものですが、毎回300人くらいの子どもの親御さんを集める一大イベントに成長してきております。このイベントについても、社会に及ぼすインパクトの大きさから評判が高く、今年3月に済州島で開催されたASPAC大会において奉仕活動賞の第2位に選ばれました。

次の写真はその時の表彰盾です。



さらに、今年松江で開催された日本地区大会においても看板プロジェクトコンテストが開催されましたが、そこにおいてもこのASPAC大会での快挙が高く評価され東京クラブに特別賞が贈られました。

(磯田 壯一郎 日本地区奉仕委員長)



## 世界に先駆けて「米国学生のホームステイ」を実施 2017.6.16-29

国際キワニス・ユース国際交流プログラムのK Corps(K コア) 第1回プログラムが、アメリカのキー・クラブ、サークルKクラブからの9人の高校生、大学生を迎え、6月16日から29日までの2週間開催され、その中の19日から26日までの1週間、東京、横浜、埼玉の3クラブでホームステイを受け入れました。その間、6月21日に埼玉クラブ主催の川越小江戸巡り、22日にサークルK 武蔵野大学によるお台場日本科学館見学、有明キャンパス歓迎パーティ、23日に東京クラブによるはとバス英語ツアーパノラミック東京、24

日に横浜クラブによるキッツゲルニカの作成で歓迎しました。

国際キワニスとして初めてのユース国際交流プログラムでしたが、学生たちは「自分の人生を変える程の影響があった」「自分に新たな目標を見つけさせてくれるプログラムだった。これからの人生が楽しみである」等の感想を残して帰国しました。

来年度は、日本のキワニスクラブ、サークルK、Keyクラブ会員及び家族のアメリカ訪問ホームステイを計画しています。期待してください。

(北里光司郎国際理事)



## ホームステイ体験談 2017.6.16-26

今年の6月19日から26日までの8日間、私どもは、アメリカの南部アラバマ州から来た16歳の女子高校生、ケンジーを預かりました。わが家にとって、「ホームステイ」というのは全く初めての経験でしたが、大変興味深いエキサイティングな日々を過ごすことができました。いくつかエピソードをご紹介します。

家族の中で英語でコミュニケーションをとれるのは私なので、横浜などのイベント先への送迎も含め、私がケンジーをフルアテンドすることになったため、彼女の滞在中はずっと休暇をいただきました。

ケンジーの住むアラバマ州の州都モンゴメリーには、鉄道がなく、車でしか移動していないので、電車

での移動というのは彼女にとって初めての経験で、人が多いことも含めて、最初は戸惑っているようでした。

ケンジーは、和食が苦手のように、特に、魚は調理したものも含めこれまでほとんど食べたことがないらしく、家内は、食事については、当初、苦労していましたが、後半はケンジーの好みを掴んだようでした。特に、最後の日曜日の「流しそうめん」は、楽しんでくれたようで、その場からアメリカの母親に電話して、その様子を報告していました。

あっという間の8日間でしたが、私どもにとっては忘れることのできない貴重な体験をさせていただきました。また、ケンジーにも、これまで以上に日本に興味を持っていただけたとすれば喜ばしいことだと思っています。

(増田好平副会長)



## 米国高校生との国際交流プログラム〈はとバスツアー〉 2017.6.25

本年6月下旬、K Corps〈ケーコア〉(キワニスに關わる高校生・大学生が来日し、日本の生活や文化に直接触れるスタディプログラム)に参加した9名の学生が東京クラブ、横浜クラブ、埼玉クラブのメンバー宅にホームステイしました。期間中、各クラブが主催する様々な行事が行なわれ、23日(金)には、当クラブ主催による「はとバスツアー〈東京見物〉」を実施しました。

朝9時に浜松町のバスターミナルを出発し、明治神宮、国会議事堂(車窓)、皇居東御苑、浅草・仲見世を回って、日比谷で昼食(バイキング)。後半は、東京湾のクルージング、お台場散策、レインボーブリッジを渡った後、日本舞踊を鑑賞し、東京駅南口で夕方5時半過ぎに解散という盛り沢山のコース(男性ガイドが英語で説明)でした。当クラブからは柵澤会長はじめ7名が付き添いとして参加。余談ながら、バスツアー参加者は、私たちのグループのほか中高年の日本人グループ。英会話のレッスンを一緒に受けている仲間とのこと。はとバス利用法の1つの参考になりました。

当日は好天に恵まれ、汗ばむ陽気になりました。朝が早かったため、高校生の一人がラッシュアワーに巻き込まれ、手前のJR駅でホームに降ろされてしまうというハプニングがありましたが、全員元気に都内見物を楽しんでくれました。バスの中では9名が後方の席に陣取り、皆で仲良く歌を合唱する場面も見られ、知り合っていないのにまとまりの良さが感じられました。

ほとんどの参加者は初めての来日であったと思われませんが、高校生たちが訪問先でとくに関心を示したのは、皇居、浅草(仲見世)、東京湾クルージング、そして日本舞踊鑑賞でした。皇居、浅草(仲見世)は日本的な景色だと思いますし、日本舞踊は日本髪、着物、そして踊りという日本文化を間近に見ることができたことが印象に残ったのではないかと思います。僅か一日という短い時間ではありましたが、東京の良い思い出になったならば幸いです。

(山下朗裕レクリエーション委員長)



(皇居・二重橋前にて)



(日本舞踊見学)

## 「歴史と文化の町“萩”訪問と奨学生を励ます旅」に参加して 2017.7.8

“当クラブらしい企画”をという会員のご意見に背中を押されて、今期は山口県萩市を訪ねる旅をセットしました。萩市は吉田松陰、高杉晋作、伊藤博文など江戸から明治にかけての激動の時代に活躍した多数の人物を輩出しているほか、萩焼など文化面でも有名な町です。この萩市の大学で当クラブの奨学生第一号である松野花歩さんが学んでいますので、松野さんを励ます趣旨も織り込んでのスケジュールとなりました。

旅行日程（7月8日<土>～9日<日>）がちょうどパリ大会の時期に近接したため、パリに行かれる会員の参加が難しかったことが残念でしたが、会員6名に加え高校時代まで松野さんの面倒を見てこられた窓愛園の中村さんも一緒に参加して下さったので、少人数ながら楽しく有意義な旅になりました。

1つだけ予想外であったのは、近隣の空港（山口宇部空港または萩石見空港）から萩市内へのアクセスについて。有名な街なので高速バスやJRなどの公共交通機関が利用できるものと考えていましたが、実際には乗合タクシーが一番便利という点でした（最近では福岡空港まで3時間弱をかけて乗合タクシーが走っているそうです）。私たちはジャンボタクシーが貸切になる程度の人数だったので、幸いだったともいえます。

初日は、松野さん、中村さんを含め8人全員で市内散策。ホテルから歩いていける松下村塾、松陰神社、伊藤博文旧宅、東光寺などを見学して、市内で夕食懇談。会った時はやや硬い表情をしていた松野さんもすっかり打ち解け、賑やかなひと時を過ごしました。

2日目は、久しぶりに再会した中村さんと松野さん



を残し、会員6名で別行動。市内定期観光バスで明倫館（旧藩校）、城下町、萩城址、萩反射炉などを見学した後、昼食を取り、午後からは萩八景遊覧船に乗って、川や海から市内を見物しました。

1泊2日という短期間ではありましたが、主たる目

的でありました松野さんとの懇談を含め、世界遺産（明治日本の産業革命遺産）にも指定されている萩市内を散策することができ、大変有意義な旅となりました。

（山下朗裕レクリエーション委員長）

## サマーパーティー2017 2017.7.26

7月26日（水）の夕方、恒例のサマーパーティーがライオン銀座7丁目クラシックホールで開催されました。棚沢会長のご挨拶に続き、年男である伊藤康成会員に乾杯のご発声をお願いしました。

さらに、今年もパーティーのお楽しみは「漆間巖会員と荒木なぎさ会員」のお二人によるピアノ連弾でした。ドヴォルザーク作曲「スラブ舞曲集」第2集から第2番、エルガー作曲「愛の挨拶」、ヨハン・シュトラウス1世作曲「ラデツキー行進曲」、ピアソラ作曲「リベルタンゴ」の4曲を演奏していただき、お二人の息のあった演奏、見事なテクニックを堪能することができました。演奏終了後は、サプライズゲストからお二人に花束贈呈があり、まさに花を添えていただき

ました。

当日の朝はかなり強い雨が降るという生憎の天気であったため、アロハシャツや浴衣といった服装は見られませんでした。その後の懇談の時間を通して参加した会員の皆さんには懇親を深め、美味しいビールを楽しんでいただけました。最後は吉國副会長による中締め。ご参加いただきました皆さま、有難うございました。終始楽しく和やかな雰囲気での進行に努めていただいた司会の山田会員、受付を担当してくださった事務局の大岡さん、上條さんにも厚くお礼申し上げます。

（山下朗裕レクリエーション委員長）



## こども食堂in妙法寺 2017.8.2

8月2日(水)に、今回で、第3回目になる「こども食堂」が杉並区の妙法寺で開かれました。今回は、地元の中学校2校から、18名の中学生が、ボランティアで参加してくれました。また、地元の町内会の方々も、いつものように、お手伝いに来てくださいました。

お昼前に、雨が降って来たため、出足が心配されましたが、児童養護施設の子供たちを含め、約300名の方々が参加され、恒例の「学士会館のカレーライス」をいただくと共に、「パソナグループの団扇作り」に皆で参加しました。また、希望者には、和室での茶道体験や体育館でのプラバンやバルーンアートの作成などの催し物もあり、参加された方々には、十分に楽しんでいただけたと思います。



最後は、地元のグループによるフォルクローレの演奏で、にぎやかに散会となりました。

キワニスクラブからは、30名の方々が、参加してくださいました。ありがとうございました。

(中田一男会員)

## 第51回キワニス社会公益賞贈呈式 2017.9.1

9月1日の例会で、第51回キワニス社会公益賞の贈呈式にそれぞれの団体の代表が出席され、棚澤会長から表彰状が贈呈された。

NPO法人アクアリズムは、知的障害児・者を対象に学校・作業所が休みの日に、保護者・ボランティアによるプール活動、音楽活動、コースを伴走指導するランニング活動など16年前から余暇支援に当たって



いる。

NPO法人みんなのおうちは、新宿という都会で外国にルーツを持つ子どもに対して、日本語と教科の学習や家族に対する支援に献身的に取り組んでいる。多文化共生・地域再生等の問題解決のため、ログハウスみんなのおうちを拠点として様々な活動に当たっている。

NPO法人ハーフタイムは、貧困・いじめなど生きづらさを抱えた子ども達に寄り添い、学生ボランティアによる勉強・お話・遊びのたまり場を提供している。家庭訪問相談により子ども達は心の安らぎや他人から尊重され守られていることを体感している。

受賞に際して各団体の代表からは一様に、「このような名誉ある賞をいただき誠に感謝している。私どもの団体にとってありがたいことで、保護者・ボランティアの皆さんにそのまま送り届けたい」とのお礼の言葉が述べられた。

(都甲洋史社会公益委員長)

## J.Pモルガン キワニスドールを作る会 2017.9.5

9月5日夕刻5時から東京駅丸の内側南口にほど近い東京ビルディングにあるJ.Pモルガンにて初めてキワニスドールを作る会が開催されました。お集まりいただいた社員のボランティアの方々は、総勢49名と大変盛況な会となりました。東京クラブからは中田元ガバナーを始めとしてボランティア活動委員会の面々8名がお手伝いに参上いたしました。まず、中田元ガバナーからキワニスクラブについてその歴史からキワニスドールを作るようになった経緯が話されました。引き続きドール作成のビデオを見てもらい、星会員から良いドールを作るためのコツが説明されました。そして実際に社員の方々に綿づめと協閉じを体験してもらいました。国際色豊かな社員の方々に熱心に取り組

んでいただいた結果、とても抱き心地が良くて質の高いドールが多数完成いたしました。ご参加いただいた社員の方々の評判も上々で、また参加したいとの声が多数寄せられているとのことでした。

(吉田浩二会員)



## キワニスドールを作る会…6月から9月までの報告

6月～9月は、キワニスドールをつくる会を5回開催しました。昨年10月からの1年間では26回開催し、そのうち4回は初めての企業や学校によるものです。

9月に開催したJPモルガン証券は、今回がはじめてでしたが、いろいろなボランティア活動の中から、CSRの取組みの一環としてキワニスドールをつくる会を実施することに決めたということです。オフィスのある東京ビルディングの会議室からは、眼下に東京駅を望むことができ、鉄道ファンにはたまらないロケーションです。当日は約50名が参加されて、一つひとつ丁寧にドールを仕上げてくださいました。今後も継続的にキワニスドールをつくる会を実施していきたいということでした。

目黒星美学園は、昨年と同様、9月の学園祭でのキ

ワニスドールづくりです。主催は同校のボランティアクラブのアグネス会。前日までは台風の影響が心配されましたが、当日は晴天に恵まれ、賑やかな学園祭となりました。アグネス会のブースには、小学生からシスターまで約20名が訪れ、慣れない手つきながらも、一生懸命キワニスドールを作ってくださいました。

この1年間に、企業や学校からキワニスドールづくりのボランティア活動に参加していただいた方は約1,000名、作成したキワニスドールは約1,300個のぼりです。寄贈先の医療機関は49施設で、作成数とほぼ同数のキワニスドールを寄贈しました。

ボランティアの顔は、キワニスドールを使う子ども達には見えません。ボランティアの中には、キワニスドールに手紙を付けて子ども達を励ましたいという方

もいらっしゃいますし、医療機関の声を知りたいという方もいらっしゃいます。キワニスドールの作り手と使い手の交流は、年1回のキワニスドールフェスティバルですが、双方が継続的に繋がる仕組みができないか考えている最中です。手始めに、医療機関にキワニスドールを寄贈するときに、アンケートを添付するようにしました。多くのアンケートが返ってくれば、ボランティアの皆さんに医療機関の声をお伝えできる

ようになると思います。

キワニスドールをつくる会は、つくる会への参加だけでなく、綿分けなどの事前準備もあります。そして、これらは会員のご協力によって成り立っています。綿分け、アイロンがけ等少しの時間でも結構ですので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(田口ボランティア活動委員長)



## 第41回キワニス 松江大会 2017.9.7

第41回「国際キワニスクラブ日本地区大会」が、島根県松江市で開催されました。

全国からの参加人数は345名で東京地区からは37名が参加しました。

今年は異例の事で、国際キワニスのエリクソン・M・ジェーン会長、キワニス子ども基金ファン・チア・シン会長のご参加賜りました。

本年度の日本地区文化賞は「大尾谷子神楽社中」と「有福子供神楽社中」の2団体に贈られました。

懇親会は島根県知事、市長をはじめ、藤原ガバナーの挨拶で始まりました。出し物として安末の「どじょうすくい」や、神楽の伝統「大蛇」が披露され、その迫力に圧倒されました。

この日本地区大会を、島根地区中村会長はじめ、34名の会員の皆様でなされた事に感動するとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。

翌日の「山陽中央新報」「産経新聞（山陰）」等に大会の様子が掲載されました。

(棚澤青路会長)



## 松江大会に出席されたジェーン国際会長夫妻とシンキワニス子ども基金会長 2017.9.7

松江大会が開催される前日の9月7日午前、ジェーン国際会長夫妻とシン会長は松江しんじ湖温泉ホテル一畑に到着されました。中村松江クラブ会長ほか幹部の皆様が温かい出迎えを受けての松江入りです。この日は雨がちでしたが、到着後すぐに中村会長ほかの案内で足立美術館の見学に出かけました。この美術館は広大な日本庭園と横山大観ほか日本画の巨匠の絵を数多く所蔵展示することで有名なところ。ジェーン会長夫妻、シン会長は雨にやや煙った日本庭園の幽玄な美しさを堪能された様子でした。また大観、玉堂、松園などの近代日本画家の作品も熱心にご覧になりました。大会当日の9月8日は、朝から地区役員会、SLP 発表会、地区年次総会、表彰式、懇親会と分刻みのスケジュールをこなされました。挨拶では、日本地区のクラブが地元の子どものために大きなインパクトのあるプロジェクトを遂行し、エリミネイトでは世界をリードする活躍をしてくれたと感謝の辞を述べられました。翌9月9日は、シン会長が所用でご帰国されましたが、ジェーン会長夫妻は、SLP リーダー研修会に参加され、芦屋、武蔵野大学、熊本学園大学のサークルKの皆さんへ自らの経験から若い世代から地域社会における奉仕活動を実践することの大切さを熱く

語っておられました。最終日9月10日には、舞台を東京に移しジェーン会長は読売新聞社のインタビューを受けられ、後日英字新聞と読売新聞の東京版に記事が掲載されました。そのあと短時間でしたが、銀座界限と東京タワーを見物、東京の賑わいと首都の広がりを実感してもらいました。この夜には新橋の新橋亭で東京クラブの歓送会が開催され、キワニス精神の共有を図ることができました。そして翌日には、次の訪問地であるオーストラリアに向けて慌ただしく離日されました。

(吉田浩二 K J F 理事長)



## エクスカッション「隠岐諸島観光の2日間」に参加して 2017.9.7

松江大会のエクスカッションで、隠岐諸島観光エクスカッション「隠岐諸島観光の2日間」に参加しました。東京クラブは6名参加で、総勢22名のグループになりました。2,3日前からの雨天と打って変わり、快晴の2日間でした。ご同行の松江クラブのお二人は、隠岐ご出身で、至れり尽くせりの計画とご案内をしてくださりました。旅は、天候と旅程で楽しさや満足度が決まりますから、出発の時点から100点満点のツアーになりました。

隠岐はユネスコ世界ジオパークに2013年認定されました。何億年前からの「大地の成り立ち」、その大地の上に成り立つ「独自の生態系」さらに、それらの上に立つ古代から現代へと続く「人の営み」の関係を一体的に体験することができると言われてます。

隠岐諸島は大小あわせて180余りの島々からなり、大きな島は「島前」に知夫里島と中之島、西ノ島の3島、「島後」に1つあります。どの島も見どころ一杯の自然がありますが、中でも西ノ島の国賀海岸は、牛や馬がいたるところで放牧されて、展望台から青い海と緑の草木、茶色の奇岩が混在し、何とも言えない牧歌的な美しいところです。この海岸線は、陸上からは断崖絶壁で、船に乗って観ることになります。3時間弱の遊覧で、大小さまざまな奇岩、そそり立つ断崖と地層、多くの洞窟、それに水の青さを堪能しました。素晴らしい景観でした。日本海の美味しい食べ物にも満足しました。

(青野厚子会員)



## 新入会員オリエンテーション 2017.9.11

平成 29 年 9 月 11 日夕刻、本年度初の新入会員オリエンテーションが開催されました。会場は昨年度に引き続き倶楽部エルさん。5 人の新入会員の方を含め、総勢 21 人の出席者により、会場は東京キワニスクラブの活動を盛り上げていこうとする熱気に包まれました。

棚澤会長のご挨拶、増田副会長の乾杯のご発声を得て、オリエンテーションはスタート。メインテーマは東京キワニスクラブの 12 の委員会の紹介でしたので、メンバーシップ委員長が「50 年の歩み」（平成 26 年に編集された年史）を基に近年の新しい動向も含めて説明、出席されていた各委員長、次期委員長候補の皆さんからもコメントをいただきました。

さらに、林達夫会員から講話もいただき、新入会員の方々の自己紹介、加えてアルコールが回るにつれ（？）粋な小唄のご披露や本格的テノールの絶唱等もあって和気藹々、会合の第 2 の目的である会員の親睦も十分はかられたところでした。

（菅野良三 メンバーシップ委員長）

先日新人オリエンテーションが開催され、私もどんな先輩方がいらっしゃるのか興味深々で、参加させていただきました。

もともと「子どもたちの笑顔のために」という目的で、小学校の「おやじの会」に入会したり、神戸の小児がんや難病にかかった子どもたちと家族が入居できる「チャイルドケモハウス」のボランティア活動に参加したり、北海道滝川市の難病にかかった子どもたちがキャンプ活動に参加できる「そらぷちキャンプ場」のチャリティウォークに参加したりと、関心を持って参加をして来ました。

生かされている自分の人生の一部の時間を社会に割いて、ささやかながら自分なりに貢献をしていきたい、キワニスの活動にも共鳴を覚えています。

何分会社員ですので、時間の自由がききませんが、許す限り、各委員会メンバーの諸先輩方の教えを乞いながら、活動していきたいと思えます。これからどうぞよろしく願いいたします。

（高井真人会員）

## 一般社団法人東京キワニスクラブ臨時総会 2017.9.29

9月29日の例会での卓話終了後に臨時総会が開催されました。議案は、平成30年9月期の事業計画書及び収支予算書の審議でした。

定款第19条に基づき、棚澤会長が議長となり、臨時総会の開会を宣言し、これに引き続き、大野事務局長から、会員総数202名に対し、出席者数64名、議決権行使書65名の合計129名に達しており、総会員の議決権の過半数を有する会員が出席しているため、総会は有効に成立していることが報告されました。

次に、審議に入り、まず、大野事務局長から、平成30年9月期の事業計画書の概要についての説明が行われました。平成30年9月期においては、「活動全体のバランスの中で、これまでの活動全体を見直しつつ、今後重点を置くべき活動の在り方についての検討を行い実行していく。」ということが基本方針として盛り込まれた上、養護施設退所者への奨学金の支給について、本年度の2名から3名に増員すること、Kファミリー委員会と青少年教育委員会の一体運営の検討を行うこ

となどが説明されました。

また、鍬川財務委員長から、この事業計画書を踏まえた収支予算書の説明が行われました。予算総額は49,139,800円となり、平成29年9月期の実績予想よりも356,765円減少したものとなっていることなどが説明されました。

特段の質問や意見等もなく、棚澤議長が議案について諮ったところ、満場一致で賛同を得て、原案どおり可決承認されました。

最後に、棚澤議長から、「キワニス年度は10月1日から始まるが、役員任期は定款第27条により臨時総会終結時までとなっているので、次期新理事の選任は11月の臨時総会の審議となり、参考までに次期役員候補者(案)を配布しています。」との補足説明がなされました。

以上で議事が終了し、棚澤議長が閉会を宣言し、終了しました。

(大野重國事務局長)

## 青少年教育賞表彰式及びユースフォーラム交流会開催 2017.9.30

9月30日(土)、第33回青少年教育賞受賞団体の表彰式及び交流会がドイツ文化会館(赤坂)で開催されました。本年度の最優秀賞には、被災地(岩手)の多くの小学校で、夏休みのレクリエーションや勉強支援に取り組んでいる「僕らの夏休みプロジェクト実行委員会」が選ばれ、棚澤会長より表彰状と副賞30万円が贈られました。同団体は約20の大学で構成され

350人の学生が活発に参加しています。優秀賞〈副賞10万円〉には、宮城県の複数の児童館で英語のゲームや食事などで被災地の子供に寄り添う活動をしている神田外語大学の「MAKE SMILE」と、カンボジアの中学校で英語教育を通じて人材育成につとめている上智大学の「STP Cambodia」が選ばれました。また、本年度は、新たな試みとして特別奨励賞を設け、部活動のかたわら児童養護施設の子どもたちとの交流や、被災地への支援募金を行っている神奈川県立横須賀高校ラグビー部に贈られました。

表彰式に続いて受賞団体のプレゼンテーション、SLP団体(武蔵野大学コネクト、座間アメリカンハイスクール)及びユースフォーラム9団体の活動報告があり、若い人たちの社会貢献に対する熱い思いに参加者一同大いに心を打たれました。プログラムの最後として立食形式で交流会が開催されました。受賞団体、SLP、ユースフォー



ラム、キワニス側参加者など総勢約 100 人が和気藹々、情報交換や相互協力について交流、親交を深め、予定を 1 時間ちかく超過する盛り上がりでした。キワニス会員の参加は約 30 人で、それぞれ会場準備や、ホス

ト役を精力的につとめていただきました。ありがとうございました。

(中村禎良会員青少年教育委員)



## 東京キワニスクラブ青少年教育賞表彰式・交流会に参加して 2017.9.30

平成 29 年 9 月 30 日、青少年教育賞表彰式・交流会が開催されました。私自身は今年 9 月の東京キワニスクラブ入会后、青少年教育委員会に所属して初めての委員会イベントとなりました。

最優秀賞をはじめ皆さんの熱のこもったプレゼンテーションに感心するとともに真剣な表情や真摯な取り組みから彼らの日頃の活動の充実振りが感じられるものでした。

また特別奨励賞の県立横須賀高校ラグビー部の皆さんも勉強と花園出場を目指す部活を両立させ、更にボランティア活動にも積極的に取り組むその姿勢には大い

に感銘を受けました。

続いて SLP やユースフォーラムからも活動報告をいただき、受賞後の活動状況を知る良い機会になりました。

このような大学生、高校生の皆さんが今後さらに活動の輪を広げ、環境が変わっても息長く活動されることを期待しています。

交流会では団体同士の情報交換で盛り上がり、最後は学生らしく LINE 交換と思しき光景も見える中、会は終了しました。

(小倉和宣会員)



2017年6月～2017年9月までの活動

2017 年 6 月	2	第2256回例会(内多勝康氏)
	6	火曜会
	8	ウェルズファーゴドールを作る会
	8	宝塚観劇会(星組公演)
	8	第93回日本酒を楽しむ会
	9	大阪クラブ設立50周年記念行事
	11	スピカ チェロとピアノの調べ
	13	火曜会
	16	第2257回例会(植村修一氏)
	20	火曜会
	23	東京見学はとバスツアー
	27	火曜会
	27	第116回囲碁愛好会
	30	第2258回例会(田中聡明氏)
2017 年 7 月	3	第79回国際懇話会(講師:サード・アルカティープ氏)
	4	火曜会
	6	宝塚観劇会(雪組公演)
	7	第2259回例会(玉井和博氏)
	8~9	歴史と文化の町萩訪問と奨学生を励ます旅
	11	火曜会
	13	第94回日本酒を楽しむ会
	13-16	第102回国際キワニス年次総会パリ大会
	18	火曜会
	21	第2260回例会(久元祐子氏)
	24	京都クラブ「祇園祭(後祭)例会」
	25	火曜会
	25	第117回囲碁愛好会
	26	サマーパーティ(ライオン銀座7丁目クラシックホール)
31	東京医科大学霞ヶ浦専門学校ドールをつくる会	

2017 年 8 月	1	火曜会
	2	子ども食堂 i n 妙法寺
	4	第2261回例会(大泊巖氏)
	8	火曜会
	18	第2262回例会(石川和則氏)
	22	火曜会
	22	第118回囲碁愛好会
	24	宝塚観劇会(花組公演)
	25-26	寺子屋 i n 妙法寺
	29	火曜会
2017 年 9 月	1	第2263回例会(第51回キワニス社会公益賞表彰式)
	3	第54回文楽を楽しむ会
	5	火曜会
	5	J P モルガン証券キワニスドールを作る会
	8	久元祐子コンサート
	8	第41回国際キワニス日本地区年次総会松江大会
	10	第54回文楽を楽しむ会
	11	新入会員オリエンテーション
	12	火曜会
	13	ギャップジャパンキワニスドールを作る会
	14	第95回日本酒を楽しむ会
	15	第2264回例会(林達夫会員)
	18	目黒星美学園学園祭ドール体験教室
	19	火曜会
	21	宝塚観劇会(月組公演)
	24	大相撲秋場所
	26	火曜会
	26	第2回歴代会長懇談会
	26	第119回囲碁愛好会
	29	第2265回例会(廉了氏)
30	青少年教育賞表彰式&交流会	

2017年10月～2018年1月 今後の予定

2017 年 10 月	3	火曜会
	6	エドワーズライフサイエンスドールをつくる会
	6	第2266回例会(講師:西林万寿夫氏)
	7	荏原看護専門学校学校祭ドールをつくる会
	10	火曜会
	11	日本醸造学会懇親会
	12	第96回日本酒を楽しむ会
	14	武蔵野大学学園祭ドールを作る会
	17	火曜会
	18	第80回国際懇話会(講師:徳地 秀士氏)
	19	第29回ワインを楽しむ会
	20	第2267回例会(講師:佐々木仁氏)
	20	靖国神社秋季例大祭
	21	文楽素浄瑠璃会
	24	エドワーズライフサイエンスドールをつくる会
	24	火曜会
	24	第120回囲碁愛好会
	28	オペラ・ブッフア
	31	火曜会
31	エドワーズライフサイエンスドールをつくる会	
2017 年 11 月	7	火曜会
	4	慈恵会医科大学看護学科学学生祭ドールを作る会
	9	宝塚観劇会(宙組公演)
	9	第97回日本酒を楽しむ会
	12	児童虐待防止オレンジリボンたすきリレー
	14	火曜会
	16	東京家政学院ドールを作る会
	17	第2268回例会(講師:松田雄年氏)
18	武蔵野大学学園祭ドールを作る会	

2017 年 11 月	21	火曜会
	23	芦屋クラブ設立10周年記念チャリティパーティ
	24	第2269回例会(定時総会)
	28	第121回囲碁愛好会
	28	火曜会
	30	秋季ゴルフ大会
2017 年 12 月	1	第2270回例会(講師:氏)
	4	新旧役員懇親会
	5	火曜会
	7	ウエルスファーゴ証券ドールをつくる会
	9	囲碁大会(第122回)
	9	忘年会
	10	第55回文楽を楽しむ会
	14	第98回日本酒を楽しむ会
	12	火曜会
	15	第2271回例会(氏)
2018 年 1 月	19	火曜会
	21	宝塚観劇会(星組公演)
	9	火曜会
	12	第2272回例会 新年互礼会
	13	新春大歌舞伎(歌舞伎座)
	16	火曜会
	18	宝塚観劇会(雪組公演)
19	第2273回例会(中村恵氏)	
30	火曜会	

■平成29年9月30日現在 総会員数 206名

■平成29年6月1日から平成29年9月30日までに入会された方 3名

高井真人様、小倉和宣様、川崎芳清様

## 東京クラブの活動

### ● キワニスドール

身長約40cmで体重約50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、キワニスマークの小さなラベルだけです。

しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、全世界の病気の子どもたちに大きな力を与えています。キワニスドールは、病気の子どもたちと仲良しになり、見守ることが使命です。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。ノッペラボウなのは、使う人が顔を描いたり洋服を描いたりすることができるようにしているためです。また、お医者さんや看護師さんが、治療の説明のために、人形に絵を描くこともできます。さまざまに描かれた人形は、病気の子どもの人形になります。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

2009年から毎年、キワニスドールの利用事例などについての情報共有をはかり、作る側と利用する側双方の課題を議論し合う場として、キワニスドール・シンポジウム2016年からはキワニスドール・フェスティバルを開催しています。

キワニスドール (Kiwaniis Doll) を平成18年7月14日に、商標登録し、平成28年4月19日に更新いたしました。

### ● キワニス子ども食堂

ひとりっ子・共働き・シングルマザー・ファザー等から「孤食」が増加する中で、世代を超えて楽しく語り合いながら、「美味しく」食べる機会の提供として、「キワニス子ども食堂」を学生会館精養軒等とともに開催しています。また、その進化系として、「キワニスカんたん子ども料理教室」を豊島園の協力を得て開催しています。

### ● キワニス奨学金 (児童養護施設卒園進学者支援制度)

児童養護施設から大学・短大・専修学校への進学者向けに年間40万円 (最長4年間) の奨学金 (生活サポート) 制度を2016年にスタートさせました。現在は2名の学生を支援しています。奨学金は会員からの寄付で賄っています。

### ● 表彰

キワニス「社会公益賞」 社会公益のために長年献身的に取り組んでいる団体を表彰しています。

東京キワニスクラブ「青少年教育賞」 国際的な活動を含め奉仕活動に積極的に取り組んでいる青少年団体を表彰しています。

キワニス「奉仕賞」 キワニスクラブの奉仕活動に協力する学生サークル、団体を表彰しています。

### ● SLP (学生・生徒版キワニスクラブ) 活動

高校生のクラブ、座間アメリカンハイスクール・キークラブと大学生のクラブ、サークルK武蔵野大学、若者による既存のサークル活動を支援するキワニス・ユースフォーラムがあり、若者のボランティア活動を支援しています。

## キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子ども達のために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どものための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ先住民の言葉“Nun-Kee-Wanis” (みんな一緒に集まる) に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約80ヶ国、7,000のクラブ、約20万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田、長崎、宮崎、佐賀、秋田、大垣、福井、沖縄、徳島の順に生まれ、現在35のクラブで会員は約2,000名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日に一般社団法人に移行しました。

一般社団法人 東京キワニスクラブ 会長 棚澤 青路 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: [tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp](mailto:tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp) URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>